第 4 経済労働部門

| 施設名 | 事業名 | 事業主体 | 事業内容 | 国庫補助金 | 県補助金 他 | 地方債 | 交付税措 置 | 説 明 | 根拠法令等 | 摘 要 |
|--------------|--|-------------|--|---------------|---|------------------|---------------|--|--|--|
| 観光 施設 | 観光権制助金 | 市町村・一部事務組合等 | 公共的観光施設の設置及び改修事業に対する補助 | | 県中 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | (| 元利償還の30%を基需要人 | 〈対象事業〉 以下に掲げる公共的観光施設の設置及び改修事業 ア 交通施設 観光道路、遊歩道、橋梁、駐車場、桟橋) イ レクリエーション施設 (広場、園地、休憩所、展望台、野営場、野外劇場、弁道施設、魚釣場、水浴場施設、泉瀬開発施設、テニスコート) ウ 衛生施設 (総井水施設、塵芥処理施設、公衆便所) エ 宿泊施設 (簡易宿泊施設) オ 管理施設 (観光案内所、管理所、標識、修景施設) ただし、道路法に基づく道路並びに道路法に基づく公園緑地、都市公園法に基づくの面景では原名をつている橋梁、都市計画法に基づく兄童遊園の区域に係る施設の設置は除く。 〈対象経費〉 以下を除き、知事が施設の設置に必要あると認めた経費 (1) 用地費、補修費及び事務費 (ただし、設計業務を委託した場合施設の工事費 (設計額) の 5/100 以内の設計委託料を除く。) (2) 単なる施設の撤去費及び仮工作物の設置に要する経費 (3) 施設の維持費および単なる維持修繕に要する経費 (4) 国庫補助又は他の県費補助の対象となった施設の設置に要する経費 (5) 都市計画法 (昭和 44 年法律第 100 号) にもとづく都市出画施設として定められた公園緑地及び都市公園法(昭和 31 年法律第 79 号) にもとづく都市公園(都市公園法にもとづく予定公園施設を含む)ならびに児童福祉法(昭和 22 年法律第 16 4 号) にもとづく児童遊園の区域に係る施設の設置に要する経費 〈補助率〉 佐田科等を微収しない施設 (銀知・1/2 以内機会) (注 1) 虚疎地域 (2/3 以内機会) (注 1) を使用料等を微収しない施設 (銀光施設) (2/3 以内機ら) (注 1) 受害復 (世用料等を微収しない施設 (観光施度) (2/3 以内機ら) (2/3 以内域ら) (2/3 以内 | 観費金網 地意運別 (1) ア (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (5) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4 | 観光振 |
| 職業訓練施設 | 愛知!! 愛知!! 類果練業設備金 (施設備金 (本助金 | 市町村 | 認定職業訓練実施団体の 利用する職業訓練共同施 設の新築・増築等事業 | 国間 事業費の 1/3以内 | 県後 事業費の 1/3以内 | 一般補助備等事業 〈充労。 | | 《認定職業訓練実施団体〉職業能力開発促進法第19条第1項に定める職業訓練の基準に従って同法第24条第1項の認定を受けた職業訓練実施団体 《職業訓練共同施設の要件〉 ア 当該施設を利用することとなる職業訓練実施団体等の訓練生数を考慮した施設規模であること。また、当該訓練生が永続的に適正教確保される見通しがあること。 イ 施設を設置するための土地が確保されていること。ウ 施設は耐火構造又はこれに準する構造であること。エ 施設のうち、国の補助金の交付の対象となる部分は、次に揚げるものとすること。教室、実習場、管理室(事務室、宿直室、用務員室及び湯沸室を含む。)、物置 | 職開備等交認訓事設設付愛定成(び補付業発整補付定練業費傭要知訓事施設助要業免整補付定練業費傭要知訓事施設助要能校傭助要職助費及費件県練業設備金網大の資金網業成(び)認助費及費交易金網業成。施交認助費及費交 | 産業人 大 大 大 大 大 大 大 大 大 |